

男子/MEN

サイモン・イェーツ

Simon Yates



[ 英国 ]



- ①1992年8月7日
- ②172cm・58kg
- ③2018ブエルタ・ア・エスパーニャ総合優勝、ジロ・デ・イタリア区間通算4勝、ツール・ド・フランス区間通算2勝、ブエルタ・ア・エスパーニャ区間通算2勝

双子の弟アダムとともに東京2020大会代表に。ツール・ド・フランスでアダムは2016年、サイモンは2017年に新人賞受賞。山岳に強い選手で、英国のエースであるトーマスをアシストする。

テオ・ゲイガンハート

Tao Geoghegan Hart



[ 英国 ]



- ①1995年3月30日
- ②183cm・65kg
- ③2020ジロ・デ・イタリア総合優勝、2020ジロ・デ・イタリア区間2勝、2019ツアー・オブ・ジアルプ区間2勝、2021ツール・ド・フランス出場

2020ジロ・デ・イタリアではアシスト役として出場したが、エースのリタイアで自由に走る機会を得て山岳ステージで2勝。最終日に逆転してメジャー初タイトルを獲得した。

ローハン・デニス

Rohan Dennis



[ オーストラリア ]



- ①1990年5月28日
- ②182cm・72kg
- ③2018・2019世界選手権個人タイムトライアル2連覇、2015ツアー・ダウンアンダー総合優勝、2015ツール・ド・フランス区間1勝

個人タイムトライアルを得意とし、3大ステージレースすべてで区間勝利している。1時間にどれだけの距離を走れるかを計測するアワーレコードでも一時世界記録を持っていた。

グレッグ・ファンアヴェルマート

Greg Van Avermaet



[ ベルギー ]



- ①1985年5月17日
- ②181cm・74kg
- ③2016リオオリンピック男子ロード優勝、2016・2019グランプリ・シクリスト・ド・モンレアル優勝、2017パリ〜ルーベ優勝、ツール・ド・フランス区間通算2勝

2016リオオリンピック男子ロードの金メダリスト。その象徴としてジャージや機材の一部にゴールドカラーをあしらって走る。ワンデーレースを得意とし、ゴール勝負で経験値を發揮する。

レムコ・エヴェネプール

Remco Evenepoel



[ ベルギー ]



- ①2000年1月25日
- ②171cm・60kg
- ③2018世界選手権ジュニアロード・ジュニア個人タイムトライアル優勝、2019世界選手権個人タイムトライアル2位、2020ツール・ド・ボーランド総合優勝

サッカーではU17ベルギー代表。ロードに転向し、ジュニア時代の2018年にロードとタイムトライアルで世界選手権二冠。ところが2020年に大落車で負傷し、必死のリハビリで再起をかける。

アレハンドロ・バルベルデ

Alejandro Valverde



[ スペイン ]



- ①1980年4月25日
- ②177cm・61kg
- ③2018世界選手権ロード優勝、2009ブエルタ・ア・エスパーニャ総合優勝、ブエルタ・ア・エスパーニャ区間通算12勝・ポイント賞4回受賞

41歳になるがツール・ド・フランスで常に存在感を示す。2018年には世界チャンピオンに。世界ランキング1位の座にも長年君臨した。東京2020大会はその集大成として金メダルを目指す。

ヴィンチェンツォ・ニバリ

Vincenzo Nibali



[ イタリア ]



- ①1984年11月14日
- ②181cm・65kg
- ③2010ブエルタ・ア・エスパーニャ総合優勝、2013・2016ジロ・デ・イタリア総合優勝、2014ツール・ド・フランス総合優勝

3大ステージレースのすべてで総合優勝しているイタリアのエース。激しい上り坂も苦にしないタイプで、過酷な東京2020大会のロードコースは得意とするところ。ベテランらしい走りも定評。

ローソン・クラドック

Lawson Craddock



[ 米国 ]



- ①1992年2月20日
- ②178cm・69kg
- ③2021アメリカ選手権個人タイムトライアル優勝、2019世界選手権個人タイムトライアル6位、2014ツアー・オブ・カリフォルニア総合3位

2018ツール・ド・フランスの初日に落車骨折し、最下位ながら23日間を走りきって完走。2021年にアメリカ選手権の個人タイムトライアルでプロ初勝利を挙げ、オリンピック代表に起用された。

タデイ・ポガチャル

Tadej Pogacar



[ スロベニア ]



- ①1998年9月21日
- ②176cm・66kg
- ③2020ツール・ド・フランス総合優勝・区間3勝・山岳賞・新人賞、2021ティレーノ〜アドリアティコ総合優勝、2021リエージュ〜バスターニュ〜リエージュ優勝

2020ツール・ド・フランスで最終日前日の個人タイムトライアルで首位に立ち、21歳で総合優勝を勝ち取った。上り坂から個人タイムトライアルまで実力を發揮するオールラウンダー。

ヤコブ・フルサン

Jakob Fuglsang



[ デンマーク ]



- ①1985年3月22日
- ②181cm・65kg
- ③2017・2019クリテリウム・デュ・ドーフィネ総合優勝、2019リエージュ〜バスターニュ〜リエージュ優勝、2020イル・ロンバルディア優勝

2016リオオリンピック男子ロードの銀メダリスト。2008北京オリンピックはMTB競技に出場し、翌年にロード転向。ワンデーレースに強く、厳しい上りが待ち構える東京2020大会のコースは得意とするところ。

ミハウ・クフィアトコフスキ

Michal Kwiatkowski



[ ポーランド ]



- ①1990年6月2日
- ②176cm・68kg
- ③2014世界選手権ロード優勝、2017ミラノ〜サンレモ優勝、2018ティレーノ〜アドリアティコ総合優勝、2020ツール・ド・フランス区間1勝

かつての世界タイトルの肩書きを持ちながらツール・ド・フランスでは総合力のあるエースを頼もしく支えるアシスト役を担う。中規模のステージレースでは勝てる実力選手。

マルク・ヒルシ

Marc Hirschi



[ スイス ]



- ①1998年8月24日
- ②174cm・61kg
- ③2018世界選手権ロードU23優勝、2020フレッシュ・ワロンヌ優勝、2020世界選手権ロード3位、2020ツール・ド・フランス区間1勝

2020ツール・ド・フランスでは連日のように積極的なアタックを連発し、ステージ1勝を飾るとともに、大会を通しての敢闘賞を獲得。世界選手権でもベテラン勢を相手に3位に食い込む。

リゴベルト・ウラン

Rigoberto Uran



[ コロンビア ]



- ①1987年1月26日
- ②173cm・63kg
- ③2012ロンドンオリンピック2位、2015グランプリ・シクリスト・ド・ケベック優勝、2017ツール・ド・フランス総合2位・区間1勝、ジロ・デ・イタリア区間通算2勝

ロンドンオリンピックの銀メダリスト。落車による大ケガで一時は引退も考えたが、ツール・ド・フランスでの総合優勝と東京2020大会での金メダルを目指して復帰。厳しい上り坂を得意とする。

リチャル・カラバス

Richard Carapaz



[ エクアドル ]



- ①1993年5月29日
- ②170cm・62kg
- ③2019ジロ・デ・イタリア総合優勝、ジロ・デ・イタリア区間通算3勝、2021ツール・ド・スイス総合優勝、2020ブエルタ・ア・エスパーニャ総合2位

小柄ながら過酷な山岳を得意とする。ツール・ド・フランスなどのメジャーステージレースではエースの一角を担うとともに、展開によってはチームメイトを上り坂でサポートする。

新城幸也

Yukiya Arashiro



[ 日本 ]



- ①1984年9月22日
- ②170cm・64kg
- ③2007・2013全日本選手権ロード優勝、2011アジア選手権ロード優勝、2012ツール・デュ・リムザン総合優勝、2018ツール・ド・台湾総合優勝

3度目のオリンピック代表。ツール・ド・フランス7回、ジロ・デ・イタリア4回、ブエルタ・ア・エスパーニャ3回の出場で全完走。ツール・ド・フランスでは2度の敢闘賞も獲得している。

増田成幸

Nariyuki Masuda



[ 日本 ]



- ①1983年10月23日
- ②176cm・61kg
- ③2019全日本選手権個人タイムトライアル優勝、2021ツアー・オブ・ジャパン総合優勝・区間1勝・山岳賞、2012全日本選手権ロード2位

バセドウ病や複数回の骨折を克服してレース復帰。日本での活躍が際立つが、欧州トップチームへの所属実績もある。大学生時代に樹立した人力飛行機日本記録はまだまだ破られていない。

女子/WOMEN

アンナ・ファンデルブレッヘン

Anna van der Breggen



[ オランダ ]



- ①1990年4月18日
- ②167cm・56kg
- ③2018・2020世界選手権ロード優勝、2020世界選手権個人タイムトライアル優勝、2016リオオリンピック優勝、ラ・フレーシュ・ワロンヌ通算7勝

リオオリンピックの金メダリストで、ロードレースとタイムトライアルのダブルタイトルを持つ世界チャンピオン。自転車強豪国オランダはアシスト陣も強く、東京2020大会では大本命となる。

エリザベス・ダイグナン

Elizabeth Deignan



[ 英国 ]



- ①1988年12月18日
- ②168cm・57kg
- ③2015世界選手権ロード優勝、2020ラクルス byル・ツール・ド・フランス優勝、2020リエージュ〜バスターニュ〜リエージュ優勝

トラック競技から転向。自国開催の2012ロンドンオリンピックでは個人ロードで銀メダル。2015年には世界チャンピオンになった。娘を持つ母親選手だが、現在もトップクラスに君臨。

與那嶺恵理

Eri Yonamine



[ 日本 ]



- ①1991年4月25日
- ②160cm・51kg
- ③全日本選手権ロード5回優勝・個人タイムトライアル6回優勝、2020世界選手権ロード21位、2019ストラータ・ピアンケ13位

硬式テニスから転向し、日本女子自転車界の頂点に長く君臨する。2016リオオリンピックではロードとタイムトライアルの2種目に出場。東京2020大会でもこの2種目に参戦する。

金子広美

Hiromi Kaneko



[ 日本 ]



- ①1980年9月9日
- ②170cm・50kg
- ③2013・2018・2019全日本選手権ロード2位、2012・2015・2017全日本選手権ロード3位、2015全日本選手権タイムトライアル3位

趣味として自転車のヒルクライム大会に挑戦してきた主婦がオリンピック代表に。上り坂を得意とするタイプで、オリンピックは初出場ながら日本代表として国際大会での経験は多い。